

鳥羽市議会改革推進特別委員会会議録

令和 7 年 6 月 2 3 日

○出席委員（１２名）

委員長	世古雅人
委員	倉田正義
委員	山本欽久
委員	濱口正久
委員	木下順一
委員	尾崎幹

副委員長	瀬崎伸一
委員	五十嵐ちひろ
委員	南川則之
委員	戸上健
委員	坂倉広子
委員	世古安秀

議長	河村孝
----	-----

○欠席委員（なし）

○職務のために出席した事務局職員

事務局長	佐々木真紀
議事総務係 書記	岡村なぎさ

次長兼 議事総務係長	平山智博
---------------	------

(午後 1時14分 再開)

○世古雅人委員長 皆さん、お待たせしました。報告会に引き続きお疲れさまでございます。

ただいまから議会改革推進特別委員会を開催いたします。

これより議事に入ります。

本日ご協議いただく案件は、皆さんのお手元に送らせてもらっております事項書のとおりでございます。

それでは、協議事項1、厚生年金への地方議会議員の加入についてを議題といたします。

詳細については事務局より説明します。

次長。

○平山次長兼議事総務係長 すみません、事務局平山です。よろしくお願いします。

私のほうからこの厚生年金の加入といいますか、厚生年金加入に向けての意見書採択に向けての今までの経緯と、あと加入した場合に影響等について説明のほうさせていただきたいと思います。

この厚生年金の加入につきましては、全国議長会のほうから加入に向けての意見書の提出を求められておりまして、それについて今まで協議をしてきたという形になりまして、その経緯について今から説明のほうさせていただきます。

まず、ドライブのほうに共有させていただきました厚生年金加入検討に係る経緯というものを見ていただいてもよろしいでしょうか。よろしいですか。

すみません、ではちょっと上から読ませていただきます。

まず一つ目、令和6年6月25日の全員協議会におきまして、事務局より制度の概要、加入による影響、他市議会の状況等の説明をさせていただきました。

議員の意見交換におきましては、賛成意見が多いものの慎重に検討すべきとの意見から、今後、議会改革推進特別委員会において政務活動費や議員報酬についてもあわせて継続的に議論することとなりました。

それを受けまして、令和6年11月6日、議員研修会のほうを開催しております。

全国市議会議長会の千葉氏による議員年金の廃止に係る経緯も含めて厚生年金制度について説明をいただきました。

現在の案ですね、自民党の総務部会の地方議員年金検討プロジェクトチームによる案では、兼職先の報酬月額が議員報酬の報酬月額を超える場合は、地方議員として厚生年金の被保険者の資格を取得しないという形で説明のほう受けております。

ちょっと参考1、2、3と書かせていただいたんですが、参考情報としましてこの市議会議長会のほうに確認した事項になってくるんですけど、一つ目が兼職のほうは報酬が低かったら議員の厚生年金に加入する。これ年金と健康保険はセットになってきますので健康保険もそちらのほうの加入という形になってきます。

ちょっとボツの二つ目のほう行かせていただきますと、厚生年金は受給中でも加入が可能。厚生年金をもらいながら厚生年金を支払っていく、加入するという形になります。逆に70歳までは抜けることもできないという形になってきます。

三つ目のボツ、厚生年金の受給額や標準報酬月額によっては年金のもらう額が一部支給停止となります。厚

生年金もらっている方が年金を払う場合、厚生年金を受給中であれば毎年、年金をもらう額が改定をされる、随時計算が再計算されるという形になります。

参考情報としては参考2のほうですね、実際の負担額のほうになってくるんですけど、厚生年金に加入した場合、個人の負担、議員の皆さんが自己負担していただく額になってくるんですが、議長ですと4万260円、副議長ですと3万4,770円、議員の方ですと3万1,110円となってきます。

こちら期末手当を含む年額に換算しますと、議長で64万1,050円、副議長ですと55万1,014円、議員の方ですと49万2,820円という形になります。

こちらは今の議員定数の状況で議員全体の自己負担額を合計しますと、513万4,624円という形になってきます。

また、市の負担、厚生年金については事業主が負担することにもなってますので、今の報酬額で今の率で今の議員定数でいきましたら、年額533万6,627円が市の公費での負担という形になってきます。

参考の3としまして、厚生年金加入による年金受給額が大体どのぐらいになるかという話になるんですけど、議員1期4年加入したとして4年間厚生年金に加入すると、年金額は11万8,082円、この額が増額といえますか、この額を受給する形になります。

続きまして……

(何事か発言する者あり)

○平山次長兼議事総務係長 もう一つの県内の市議会の報酬等の資料のほうをご覧くださいませでしょうか。

別の資料となります。報酬額のほうの資料です。よろしいでしょうか。

こちら三重県内の各市の報酬額のほうを一覧にまとめたものなんですが、報酬額と政務活動費の額をまとめたものになります。

津市から志摩市までの14市を記載のほうしているんですが、一番多いのが議長のところだと四日市のほうで70万4,000円、副議長で64万1,000円で、議員で60万円という形になってきます。

逆に一番少ないのは尾鷲市さんの議長で42万5,000円、副議長で35万3,000円、議員の方で32万1,000円という形になっております。どちらかという鳥羽市のほうが尾鷲市さんに近い形の報酬体系になってるかと思います。

あと、その隣の役職加算の有無とあるんですが、ほとんどのところ無いんですけど、四日市さんだけ委員長とかの役職ついてるとその分報酬に加算があります。四日市のみで他の残りの13市は何もない状態ですので、細かいことはちょっと省略させていただきましたが、四日市だけそういう報酬の役職加算があるということだけご承知おきください。

続きまして、一番右側の政務活動費になります。

こちらについては基本的に月額で書かせていただいているんですが、鳥羽市と熊野市のみ年額で書かせていただいております。

基本的に月額、津市さんから5万円、四日市市さんが7万円と続いてくるんですが、まず、尾鷲市さんにつきましては平成30年で政務活動費のほうも廃止としております。熊野市さんも政務活動費としてはもうなくて、研修にかかる費用のみ年額で12万円を上限に研修にかかる費用を支給するという形で政治活動について

はもう支給はないという形になっております。

一番多いので四日市さんの月額7万円。

一番少ないのでここは伊賀市さんと亀山市さんと志摩市さんと月額2万円。こちらが一番少ない額になっているんですが、こちら年額で計算しますと24万円になりますので、鳥羽市が一番少ないぐらいになってくるのかなという現状になっております。

続きまして、もう1個別の資料の政務活動費の実績のほうの資料をご覧くださいませでしょうか。

こちら令和元年度から6年度までの予算額と決算額のほうを記載させていただきました。

令和元年から令和4年までは予算額として218万4,000円、令和5年度には202万8,000円、6年度では187万2,000円とちょっと1人ずつ減ってきているという形もありまして、予算額が1人分減っている形となっております。

決算額としましては令和元年度150万円ほど、令和2年度で110万円ほど、3年度で130万円、4年度で150万円、今年度も150万円ほどで、6年度132万円と少し下がってきている形になります。執行率は大体60%か70%前後にはなるんですが、ちょっと令和2年度少ないんですけど、この満額と書いてあるところ5人、4人、3人、6人、7人、6人と人数書いてあるんですが、この満額っていうのは政務活動費を満額使用した方の人数をここに記載しております。

逆にもう一つ隣の右側ですね、実績なしというところは政務活動費を使わなかった方の人数となっております。6年度については政務活動費を全く使わなかった方はゼロなんですけど、それ以前ですとちょっと全く使われない方も1人ないし2人見えたという形になります。

これらを今までの厚生年金の検討に係る経緯と報酬の額、あと政務活動費について紹介のほうさせていただきましたので、こちらについて今から議論をしていただく形になるかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

私からの説明は以上です。

○世古雅人委員長 ありがとうございます。

冒頭申し遅れましたけれども、私新米委員長ですので皆さんご協力よろしくお願いします。

事務局の説明は終わりました。

事務局からの説明にあったとおり、厚生年金の加入については議員報酬及び政務活動費をあわせて協議すべきとなりました。

つきましては、先ほどの事務局の説明を踏まえ皆様から意見をいただければと思います。

ですけど、まず本題であります厚生年金を主に、そのあとまた皆さんの意見をもらいながら議員報酬等も含めた議論をしていきたいと思っております。

それでは皆さんの意見をいただきたいと思っておりますので、委員の皆さん意見があればどうぞ。挙手をもってお願いします。

濱口委員。

○濱口正久委員 ちょっと確認をさせてほしいんですけど、今回厚生年金の加入の検討ということはうちらで決めて、うちらだけでこれをもらうというわけではないと思うんです。

それで、これを意見書を採択するっていう方向でいいんでしょうかね。

○世古雅人委員長 濱口委員が言われたように、これ私たちが決めるんじゃない、意見書を出すための、はい。議長。

○河村 孝議長 すみません、ちょっと事務局のほうが勘違いしてるのかなというところがあってですね、事務局との話し合いの中で私が伝えたのは、当然全国市議会議長会からの厚生年金の加入における意見書を採択してほしいということは全国市市議会議長会の会長からずっと言われ続けてます。

全協を開いて勉強会を開いてというところはこの経緯のとおりなんですけど、今回事項書のタイトルがそれを、じゃ採択するのかどうかというところまで持っていくという話ではなくって、今の鳥羽市議会の立ち位置がどうなんだということをしっかりと一度皆さんに共通認識してほしいというところで、全国的に今の鳥羽市議会の歳費がどうなんだ、政務活動費がどうなんだ、で、もう一つは当然、我々は通年会期制でありますので、その辺の通年会期というものが皆さんのご負担になってることはもう間違いないわけです。当然、休会のときには自分のプライベートのスケジュール入れられるわけですけども、それがいつ開かれてもおかしくないという状況で皆さんがスケジュールも入れにくくなってくると、ある意味で拘束されているっていうのも事実なんで、その辺も含めて通年会期を行っている議会同士の比較等々も踏まえてということは事務局に指示出させてもらったんですけど、あんまり伝わってなかったのかなというところで、決してこの場ですぐに厚生年金加入の採択するのかどうか、意見書を出すのを決めるのかどうか表決するということではなくって、この1年をかけて皆さんの意見をちょうだいして今の鳥羽市議会が置かれている議員の立場は全国的にどうなんだ、他市町の通年会期制を取り入れている議会としてどうなんだというところをトータル的に皆さんに共通認識持ってもらおうという方向がまず一番大事なのかなというふうに考えてます。

その上で、厚生年金の加入が必要ということであれば意見書の採択もやぶさかではないですし、議員歳費、政務活動費等についても報酬審を開いてもらうという要請をすることもやぶさかではないと。

まずは、今鳥羽市議会が置かれている状況をこの議会改革特別委員会を通じて皆さんに共通認識を持っていたきたいというのが趣旨でございます。

○世古雅人委員長 議長、ありがとうございます。

先ほど議長がこちらの事務局へ伝えたことがきちんと伝わってないのかなというようなことで、再度内容について説明いただきました。

そういったことで、採決に向けての緊急な意見の聴取ではなく、今現在鳥羽市が置かれた状況を話し合いながらどういった方向に向かっていけばいいかと、そういうところで本日の話し合いの中でいろいろ活動についてとか報酬についても含めて協議していただきたいと思いますので、これについてまた意見をお願いしたいと思います。

木下委員。

○木下順一委員 そうやろなと思ったのが、今議長の説明がなかったらどこから入っていいかわからんような状況やったんで、もう今の鳥羽市の議員さんの立ち位置いうたら見てのとおり、示していただいとおり報酬にしても政務活動費にしても何ら高いというか、市民の皆さんから批判を受けるほど高いもんでもないと思うし、例えば30代でも40代でもよろしいけれども、結婚したてで子供も小さくて家も建てやんならんという

ような場合があつてね、そういう方が議員を志そうとしたときに今の歳費なんかで到底無理なんですし、議員なんて銀行からお金も貸してくれへんで、もう少し今の状況ですとその言われとる厚生年金にも入れないような状況になって今の歳費のままで3万1000なにがしですか、公費負担もあるけれども、自分が負担する分を引かれてしまったときに我々のようなもう子育ても終わって高齢者だけで住んどるような場合ですとそう負担はないかと思うけれども、やっぱり若い方にとっては今のまま厚生年金の問題も含めてですけれども、そういうところへ行くのにはちょっとやっぱり報酬のこととか考えていかんといかんのと違うかなというふうに私は思ってます。

○世古雅人委員長 はい、わかりました。

木下委員言われたように私たち、それぞれの立場だけで考えるのではなく、新たな議員を目指そうとか若い方のそういった状況も踏まえたそういう議論になればいいかなと思いますので、そういったところも踏まえて意見があればどんどんお願いしたいと思いますけども。

誰か、他にも。

尾崎委員。

○尾崎 幹委員 もちろん今木下議員が言われたようなことはまず一番必要なことですよね。

その次に、もうこの議員年金じゃなく厚生年金になるわけですよ、今回は。厚生年金の掛率と受け取る時の年金の額があんまりにも大差あると。議員年金やったらもっと多かったわけなんです、過去はね。かなり、やっぱりこれ1期4年で自分ね、僕は1議員として49万2,000円払って、それで、もうちょっと多いかな、同じだけを市がまた払って、月10万円払うわけですよ。そやで、1期4年で400万円払うと。1期でもしくは終わった場合、1年の年金額が11万円なんです。35年くらい生きとらな元取れへんっていうのが本来やもんで、市負担金を報酬に上げるほうがみんないいんじゃないかなというような考え方を持つんが本来かな。

この議員年金が廃止されて厚生年金に加入が本当に皆さんいいのかなっていう。あんまりにも低過ぎます、議員年金あったときから比べると。これでは木下委員言われた若い子らが本当に今後、年金幾つもかけていかないかんという仕組みにはなっていくんじゃないかな、厚生年金では。

そこら辺をもう一遍加味した中でみんなで議論していくべき。

一番はもうやっぱり議員報酬をまず上げることからスタートしていかなあかんのかなと思ってますので、上げてもらうのいいですよ。この中で議員年金もらえるの俺だけなんです、僕だけなんです。毎年減ってますから。4期したときは13万幾らやった、年間ね、月10何万もあつたんがもう今は8万9,000円かな、8万……そやで、どんどん下がってくんは、そやけど、年金は上げていかないかんいう議論やで厚生年金としては国は上げてきますよって言うわけですから、そこら辺はもうちょっと詳しい中身があれば、もっと的確な考え方がみんな持てるんじゃないかと思ってますので、よろしくお願いします。

○世古雅人委員長 ありがとうございます。

それぞれの考え方とか意見もあると思います。

(「言われたような中身がね、もうちょっと詳しく」の声あり)

○世古雅人委員長 そうですね。

他にございませんか。意見として。

(「議長の意見はな、尊重せな」の声あり)

○世古雅人委員長 そうですね。

他にございませんか。意見として。

(「ないですね」の声あり)

○世古雅人委員長 ないですか。

濱口委員。

○濱口正久委員 これ、たびたび何回か議員年金の話も出てきたかと思うんですけど、今後この議員報酬及び政務活動費も含めて今、三重県内でこの事例しか出てないですけど、本当に全国的なところももうちょっと通年会期制をとってるところであったりとか、よく似た人口形態のところとかもうちょっと調査して見直すべき時期に来てるのではないかなと思います。

職員のほうも賃金も上がるところの中でうちらも含めてこの活動の中で今後の新しい人たちが、若い人たちが入ってくることも考えてしっかりと今から1年かけてでもやるべきではないかなと思いますんで、これ議題としては今後、これを前向きに調査していくという方向でいいのではないかなと思います。

僕はそう思います。

○世古雅人委員長 ありがとうございます。

濱口委員言われましたように県内だけではなく他の事例も参考にしながら、決して三重県下でも鳥羽市はもう一番低いというような、尾鷲、熊野さんとは同等というか同じようですけども、他市とは低い、そういう状況で他の通年議会も含めてそういったところもまずは事例を出して、また時間かけながら検討していきたいということは私もあれですけど、そういう意見。

他にございませんか。

戸上委員。

○戸上 健委員 議長が提起したように僕は鳥羽市議会としてさ、汝の価値に目覚むべしと、今そういう時期に来と思うんさ。

通年会期もそうやし、議会改革もそうやし。木下議長の時代からもうチームワークっちゅうか、議会一本で力発揮するんだと、現に力発揮してきと思うんさ。

それに比べて議員報酬がさ、こんなもん話にならんわな。

四日市は議員だけで比べたら議員は60万円やろう。うちは33万5,000円で四日市の議員がうちの倍ぐらい働いとるか発言しとるか言うたら全然そうじゃないわけさ。

何でそういうことになってるかっていうと、財政規模によってこうなってるわけやろう。

しかし、職員はどうかっていうと職員はラスパイレス指数で、四日市の職員と鳥羽の職員とほとんど変わらんわけさ。鳥羽の職員のラスパイレス指数は95.8%か、96%やで、四日市の職員とほとんど変わらんわけやわ、ちょっと四日市が高いだけで。

議員だけこんなあんた格差があるっていうことはそもそもベースからおかしいわけさ。そういう認識はみんなが議論して一致させたほうがいいと僕は思うんさ。

○世古雅人委員長 戸上議員の貴重な意見だと思います。

これもね、自分たちの報酬を上げろ上げろ言うのはなかなかあれですけども、実情としてやはりそういう状態やなというのが現状ですがね、そこも踏まえてそういう話を、内容について皆さんの意見をまとめていきたいと思いますので。

他にございませんか。

○戸上 健委員 委員長、ごめん。

ちょっと蛇足やけれども、僕のようにもう今期で勇退するという議員がやっぱり後に残った若手がさっき出とったけれども、順ちゃんも言うのとったけれども、本当に40代、50代で子育てもできると、そういう議員活動一本に打ち込めると、そういう議員報酬、議員歳費をもう我々は保障したらないかんと思うんさ。

そやないと有能な若手って出て来やへんわな。

これ、僕今日もらったけどさ、一応名目は33万5,000円なっとるけどさ、それぞれ25万4,300円やで。

恥ずかしくてこんな言えへんわな、僕ら。若手の皆さんが存分に働ける、そういう待遇にしたるべきだと思う。

○世古雅人委員長 はい、わかりました。

ほぼほぼ皆さんの意見としては議員報酬については、我々の意見としてこれは報酬審議会とかそういったところに委ねるようになるんかなとは思うんですけども、そういったところも含めて実際は、はい。

(「委員長よろしいですか」の声あり)

○世古雅人委員長 はい。

○河村 孝議長 このままではなかなか議論を深めていくというのがまだまだ難しい状況ではあると思うんです。

先ほど申しましたように通年会期制、全国で取られてる議会との比較っていう資料もまだまだ出てませんので、申し訳ないですけど正副委員長で指名していただいて小委員会でその辺をまず調査すると、皆さんが議論しやすい資料、もう一度データを調査して、それでもう一度皆さんにそのデータを基にもんでいただくという方向で次回へということではいかがかなと思うんですけども。

○世古雅人委員長 ありがとうございます。

議長からそういった意見、私の進行がちょっとまずいところもあるかと思うんですけども、そういったところである程度案を作って、そうしないと勉強会というか皆さんの議論が出しにくいと思われますので、そういった意見で皆さんよろしいでしょうかね。

(「もう1点だけいい」の声あり)

○世古雅人委員長 はい。

○尾崎 幹委員 厚生年金っていうのは社会保険制度になってくよって、社会保険制度というのは社会保険もつけて厚生年金と抱き合わせ、本来はそういう形が一般ですよな。

その中の厚生年金だけ取り入れるっていうのは、やっぱりちょっとおかしい、社会保険まで入れた加入にせな。そうすると国民年金払っとる人は皆高いと、僕で国民健康保険60万円なんですよ、年間払わないかんのが。そこを社会保険制度で社会保険と厚生年金になると半分になってくと。

市が半分持ってもらえるわけやで、そういう抱き合わせのやっぱり取り組みがあるんやったらそれもちょうと調べてほしいですね。

厚生年金だけとか社会保険だけっていうんじゃないしに本来はかみ合わせやと思っとるよってね、社会保険制度としては。セットは本来やで。

○世古雅人委員長 事務局。

○平山次長兼議事総務係長 すみません、先ほど少しだけ触れたんですけど、この厚生年金、健康保険のセットになりますので。

（「なるの」の声あり）

○平山次長兼議事総務係長 なります。なりますというか、これについてもプロジェクトチームの案はその形になってるんですが、あくまで今検討している段階でそのとおりになるわけでもなくて、あくまでそのプロジェクトチームの案として作ってるのでは健康保険の加入と合わせて加入という形で検討のほうが進められています。

○世古雅人委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 その金額も入った金額なん。違うでしょう、これは。

13万1,000円くらい1議員の、うちの今の報酬からすると。これ厚生年金だけの負担ですよ。

もし社会保険制度で抱き合わせになったら、社会保険も半分市が持たないかんわけですから、抱き合わせのほうみんな絶対楽だと思います。

そやで、何で厚生年金だけ外して僕らにするんかっていう疑問があったもんでね、抱き合わせですね。もうそれはそうしたら給料上がるみたいなもんや。

半分市が持ってくれるんやもん。

○世古雅人委員長 これは資料の出し方がすべてちょっと理解しにくい部分があったんかなと。

（「抱き合わせして」の声あり）

○世古雅人委員長 坂倉委員。

○坂倉広子委員 すみません、ずっと議論してきたのは事実であります。

議長会のときからずっと言われていて、厚生年金の加入っていうのは戸上委員も尾崎委員も木下委員も言われたようにやっぱり社会保障っていうのが私たちはもう平成23年からないわけなんですね。

なので、個人で国民年金をかけて、そしてやっているという事実がありますので、そこもちょっと社会保障と税と一体というかそういうふうなところの社会的に移行、どういうふうなのが、まだ正式に発表はされてないっていうことでしたよね。

こういう案ですっていうのですから、やっぱりちょっと見えない部分がありますので、例えば議員で三重県下で通年議会やってるのは四日市と鈴鹿と鳥羽かなというちょっと認識ですけど、そこもちょっとしつかり出していただいて、類似団体って言ってくると鳥羽は熊野、尾鷲、鳥羽市っていう団体になろうかと思うんですけど、そういうところをちょっと明確に委員長また出していただければ比較ができるので、ありがたいと思います。

○世古雅人委員長 先ほども話したように協議する土台となる資料とか内容がないと話が進まない。

議長が提案していただいた小委員会的なものをまずつくって、今日はそういったところでこの内容を詰めた後に、今日議題に上がってます中身については今後、時間かけながらも、すぐやることではない。急がないかんことでもないと思いますので、この議会改革推進特別委員会の中の一つの議題としてやっていきたいと思っていますので、皆さんそれでよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○世古雅人委員長 それでは、異議なしということで小委員会の……

（何事か発言する者あり）

○世古雅人委員長 そこで……

（「議長と戸上さんの話だけまとめたらいいい」の声あり）

○世古雅人委員長 せっかく皆さんここであれしてますので、どの程度といいますか、どういう人数的なのとを決める、指名的な。

○河村 孝議長 正副委員長一任で、何人になろうとお二人が使い勝手のいい人を選んでいただければ。

○世古雅人委員長 わかりました。

一任の前に、まずこの小委員会というか正式ではないんですけれども、この委員として意見を自ら言ってみようという、もし委員の中でいましたら挙手で立候補していただきたいんですけど、いかがですか。

五十嵐さんどうですか。

○五十嵐ちひろ委員 はい。

○世古雅人委員長 はい、五十嵐さん。

他にどうですか。

私若い人ですね、これから若い人だけには限りませんが、そういったところで今後の協議の中では一番ご意見が反映されたら一番いいのかなと思いますので、どんどん手を挙げていただきたいと思いますが。

（「もうそれなら委員長がここまで全部で」の声あり）

（「指名したらどうですか委員長」の声あり）

（「異議なし」の声あり）

○世古雅人委員長 いいですか。

戸上委員、いいですか。若手のこちらで。

○戸上 健委員 大賛成です。

○世古雅人委員長 いいですか。

そしたら、五十嵐委員から委員長、副委員長含めて議長、副議長はオブザーバーで入ってということで、これが今後の中身、内容についての協議はこの小委員会でやっていくということで進めさせていただきたいと思っています。

それで、そこで協議したい内容を洗い出して、皆さんに示して意見をいただき今後検討というか決定していくという進め方にさせていただきたいと思っています。

よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○世古雅人委員長 そういう方向についての案を提示していくということで進めていきますので、よろしくお願いいたします。

次に協議事項２、その他について、委員の皆様よりなにかご意見、ご提案等はありませんか。

（「なし」の声あり）

○世古雅人委員長 よろしいですか。

（「政務活動費は今からなんや」の声あり）

（「そういうのも抱き合わせて」の声あり）

○世古雅人委員長 政務活動費も含めて。

よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

（「奇数にせな。偶数にせないかんのや」の声あり）

○世古雅人委員長 ないようですので、本日の協議事項はすべて終了いたします。

これを持ちまして、議会改革推進特別委員会を終了いたします。

本日はどうもありがとうございました。

（午後 １時５０分 散会）

委員長はこの会議録をつくりここに署名する。

令和7年6月23日

議会改革推進特別委員長

世 古 雅 人